

# 情 報

## 歯科衛生士学科抄読会報告

平成19年に引き続き歯科衛生士学科抄読会は本年度で42回となった。毎回2名の演者がそれぞれ興味あるテーマや研究分野の文献を紹介し、活発な意見交換がなされた。保健・医療・福祉分野の最新情報を知るうえで大変意義ある時間となっている。

歯科衛生士学科 平澤明美

第35回：2008年1月16日

(1)本間 和代

『慢性歯周炎患者における喫煙および受動喫煙のGCFエラスターゼ活性に及ぼす影響』

伊藤 弘, 沼部幸博 (日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座) : 日歯周誌, 49(3) : 198-206, 2007

(2)小黒 章

『INTRA-ORAL HYDROGEN-ION CONCENTRATIONS ASSOCIATED WITH DENTAL CARIES ACTIVITY』

ROBERT M STEPHAN : JDR, 23(4) : 257-266, 1944

第36回：2008年3月19日

(1)平澤 明美

『新規開発粘膜調整材の理工学的性質に関する評価』

洪 光 (広島大学大学院医歯薬学総合研究科歯科補綴学研究室) : 老年歯学, 22(2) : 90-99, 2007

(2)山田 隆文

『次世代の歯科治療としての歯の再生』

辻 孝 (東京理科大学基礎工学部生物学講座) : 日本歯科医師会雑誌, 60(7) : 635-646, 2007

第37回：2008年4月16日

(1)小野真奈美

『臼歯部修復物の生存期間に関連する要因』

青山 貴則他 (北海道大学大学院歯学研究科口腔健康科学講座予防歯科学教室) : 口腔衛生学会誌, 58 : 16-24, 2008

(2)金子 潤

『歯科衛生士教育機関における診療補助実習』

吉田 隆他 (埼玉県立大学保健医療福祉学部健康開発学科) : 日歯保存誌, 518(1) : 72-81, 2008

第38回：2008年5月21日

(1)渡邊 美幸

『有病者歯科診療支援における歯科衛生士への情報提供に関する研究：第1報』

中野恵美子 (東京都歯科衛生士会) : 口衛学誌, 2(2) :

29-36, 2008

(2)大平 芳則

『聴覚情報処理障害 (APD) について』

福島邦博他 (岡山大学大学院医歯学総合研究科耳鼻咽喉・頭頸部外科) : 音声言語医学, 49(1) : 1-6, 2008

第39回：2008年6月4日

(1)和田麻衣子

『歯科臨床教育用患者ロボットの開発に教育・評価システム』

間所 睦他 (昭和大学歯学部歯科矯正学教室) : 口歯教誌, 23(1) : 24-32, 2007

(2)栗崎由貴子

『Long-term stability of improved language functions in chronic aphasia after constraint-induced aphasia therapy』

Meinzer M他 : Stroke, 36(7) : 1462-1466, 2005

第40回：2008年7月2日

(1)幸田 奈美

『音波歯ブラシの矯正治療における疼痛緩和効果』

武山 治雄 (埼玉県入間市) : 日本顎咬合学会誌, 25 : 179-184, 2005

(2)福島 祥紘

『万能細胞- iPS細胞について』 Newton, 6 : 12-61, 2008

第41回：2008年9月3日

(1)木戸真紗美

『喫煙者における歯周治療期間中の付着の喪失と臨床的パラメータとの関連について』

関野 諭 (日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座) : 日歯周誌, 49(3) : 215-223, 2007

(2)小黒 章

『Perfluorooctane Sulfonate (PFOS) and Related Perfluorinated Compounds in Human Maternal and Cord Blood Samples : Assessment of PFOS Exposure in a Susceptible Population during Pregnancy』

Koichi Inoue他 : Environ Health Perspect, 112 : 1204-1207, 2004

第42回：2008年11月5日

(1)本間 和代

『歯科衛生士の社会的ニコチン依存度と禁煙教育の効果』

竹内あゆ美他 (愛知学院大学歯学部附属病院歯科衛生部) : 日歯周誌, 50(3) : 185-192, 2008

## 情 報

### (2) 山田 隆文

『Bisphosphonate-Related Osteonecrosis of the Jaw (ONJ) : A Report of Two Cases』

Chatlert pongchaiyakul MD 他 (Department of Medicine, Srinagarind Hospital, Faculty of medicine, Khon Kaen University, Khon Kaen) : J Med Assoc Thai, 90(11) : 2494-2498, 2007

## 2008年度附属歯科診療所報告

金子 潤<sup>1</sup>, 木暮ミカ<sup>2</sup>, 生野美絵<sup>3</sup>, 丸山 満<sup>4</sup>, 青木さつき<sup>5</sup>

<sup>1</sup>診療所長, <sup>2</sup>副診療所長, <sup>3</sup>副歯科衛生士長, <sup>4</sup>歯科技工室長, <sup>5</sup>ことばクリニック室長

附属歯科診療所は開設12年目に入り, より質の高い歯科医療の提供と業務の効率化を目指してスタッフ全員が結束して努力した1年であった。以下に2008年度の重点活動項目, 臨床教育, スタッフ研修の状況を報告する。

### 1. 2008年度重点活動項目

本年度は「インプラント治療」を最重要の活動目標とした。2008年12月現在, インプラント埋入手術を単独で行うまでには至っていないが, スタッフの研修および診療室環境の整備を重点的に実施してきた。

1) 「ITI・Straumannデンタルインプラントシステム」によるインプラント治療環境の整備(手術室等のインプラント治療環境およびインプラントコンサルテーション, 料金設定)が完了した。

2) インプラント臨床研修として歯科医師1名および歯科衛生士1名が, 昨年度より継続して日本歯科大学新潟病院口腔インプラントセンターにおける研修を行った。

3) 医局会セミナー等を通じてスタッフのインプラント治療に関する知識の習得を図った。

### 2. コ・デンタルスタッフの臨床教育

本学各学科, 各専攻科の多様な実習形態に対応して受け入れを行った。また外部実習生も積極的に受け入れた。

#### 1) 歯科衛生士学科臨床実習

##### (1) 実習生

・2008年度3年生91名(2008年4月～9月)

・2008年度2年生95名(2008年10月～)

7班編成により1班計9週間のローテーション制

### (2) 実習内容

・歯科予防処置実習

歯周病予防処置…1人10症例以上

齲蝕予防処置…1人10症例以上

・歯科診療補助実習

一般歯科診療, 矯正歯科診療, 障害者歯科診療, 歯科訪問診療, 受付応対, 消毒滅菌等

・歯科保健指導実習

予防患者, 介護保険施設, 保育園, 小学校, 中学校等における個人および集団指導

・歯科口腔介護実習

西新潟中央病院

・保健所実習

坂井輪地域保健福祉センター, 西地域保健福祉センター, 東地域保健福祉センター

・歯科技工室見学実習

・ことばクリニック見学実習

・臨床ゼミ

### 2) 歯科衛生士学科早期臨床体験実習

#### (1) 実習生

・2008年度2年生99名(2008年5月～7月): 1グループ4名で80分

・2008年度1年生70名(2008年7月): 1グループ6名で45分

#### (2) 実習内容

臨床現場の雰囲気を経験し, 歯科医療における歯科衛生士の役割を理解させた。

### 3) 生体技工専攻科臨床技工実習

#### (1) 実習生

2008年度1年生5名(2008年4月～)

#### (2) 実習内容

・附属歯科診療所の歯科技工物の製作

有床義歯: 義歯完成までの一連の技工操作(個人トレー, 咬合床, 蠟義歯, 維持装置, 完成義歯)

歯冠修復: メタルコア, インレー, 全部鋳造冠, 硬質レジン前装冠, 硬質レジンジャケットクラウン, 個歯トレー, テンポラリークラウン

その他: 平行模型, ホワイトニング用カスタムトレー

・患者担当制の歯科技工物製作および診療見学

全部床義歯, 部分床義歯について

### 4) 歯科技工士学科見学実習

#### (1) 実習生

2008年度2年生47名(2008年9月～10月): 1グループ